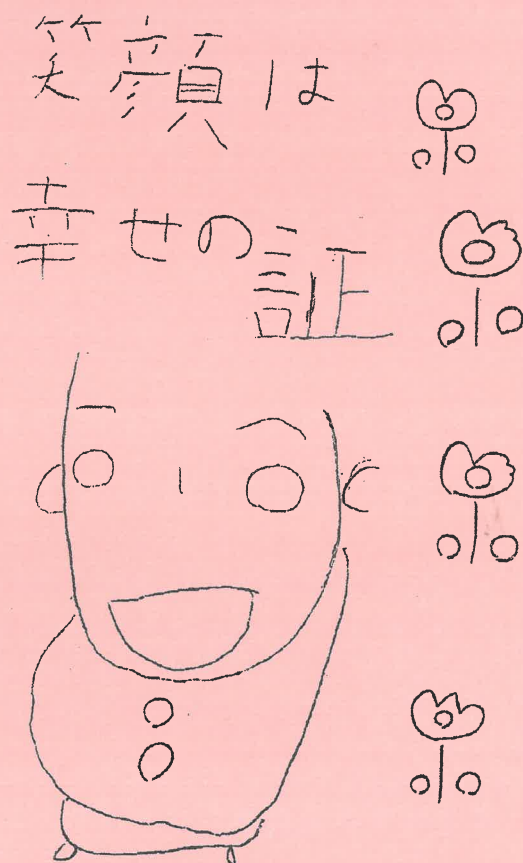


ながおかきょうし しせい しゅうねん きねん
「長岡京市市制50周年記念」

じんけん だんじょきょうどうさんかく
人権・男女共同参画フォーラム2022

だい かい しょう しゃじ じんけん かんが
第45回 障がい者児の人権を考える

しみん
市民のひろば



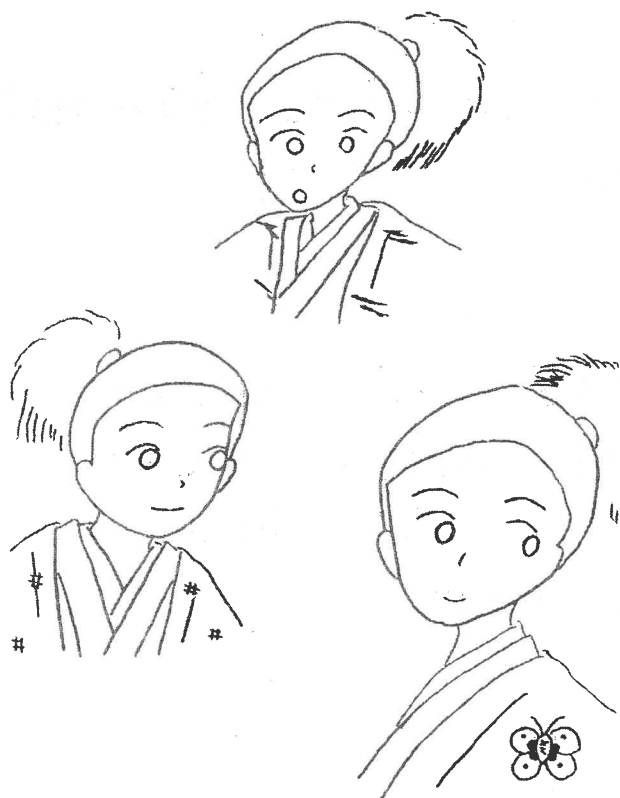
れいわ ねん がつ か ど
令和4年12月3日(土)

え 絵 おとくにわかたけえん りようしゃ
乙訓若竹苑 利用者

ながおかきょうしり つちゅうおうこうみんかん
長岡京市立中央公民館

がつ か にち がつ か ど じんけんしゅうかん
12月4日(日)～12月10日(土)は人権週間です

がつ か ど がつ か きん しょうがいしゃしゅうかん
12月3日(土)～12月9日(金)は障害者週間です



じんけん だんじょきょうどうさんかく
「人権・男女共同参画フォーラム2022」
だい かいしやう しゃじ じんけん かんが し みるん あいさつ
「第45回 障がい者児の人権を考える市民のひろば」 挨拶

ながおかきやうしちやう なかこうじけん こ
長岡京市長 中小路健吾

ほんじつ じんけん だんじょきょうどうさんかく だい かいしやう
本日は、「人権・男女共同参画フォーラム2022」「第45回 障がい
しゃじ じんけん かんが し みるん さんか まこと
者児の人権を考える市民のひろば」にご参加をいただき、誠にありがと
うございます。

しんがた かんせんしやう かくだいじやうきやう いま しやうそく いた しゃかい
新型コロナウイルス感染症の拡大状況は未だ収束には至らず、社会
ぜんたい おお えいきやう およ さまざま こうどうせいげん かん
全体にまだまだ大きな影響を及ぼしているものの、様々な行動制限が緩
わ かんせんたいさく じっし かつどう さいかい
和され、感染対策を実施しながらも、これまでの活動が再開されていく
ものとの期待しております。

くに がつ か か しょうがいしゃしやうかん がつ
国は、12月3日から9日までを「障害者週間」、そして、12月4
か か じんけんしやうかん い ち きかん かくち
日から10日までを「人権週間」と位置づけ、この期間にあわせて各地
でさまざまな催しを行っております。本市も、障がいの有無や、性別など
かか ひと たやうせい みと あ じぶん く
に関わらず、あらゆる人が、多様性を認め合い、自分らしく暮らすこと
ができる共生社会の実現をめざして、「人権・男女共同参画フォー
ム」と「障がい者児の人権を考える市民のひろば」を合同開催いたしま
す。

じんけんしんがい ざんねん われわれ みちか そんざい ふたし
人権侵害は、残念ながら我々の身近に存在するものです。不確かな
じやうほう もと こうどう えすえぬえす さべつてき か こ あたら かたち
情報に基づく行動や、SNSへの差別的な書き込みによる、新しい形

での人権侵害も引き起こされています。内容も、同和問題をはじめ、女性、障がいのある人、高齢者、外国人、子どもに対する暴力、そして新型コロナウイルス感染症に関することなど、様々な人権問題が存在しています。

本日のイベントを通じて、様々な「人権」について考え、「人権」を感じていただくきっかけとなることを心より願っております。

お互いのことに関心を持ち、協力し合ってこそ、キャッチフレーズである「今日考えよう 共に考えよう 暮らしやすいまち長岡京」の目指すビジョンがひとりひとりの胸に宿るのではないのでしょうか。

そして、すべての人が自分らしく安心して暮らせる“かしこ暮らしっく”なまちを、皆様と共に創りあげてまいりたいと考えておりますので、今後とも、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

長岡京市は今年、市制施行50周年という記念の年を迎えることとなりました。これまで先人たちが繋いできたバトンを受け継ぎ、これからの50年に引き継いでいきたい、そんな思いを込めて、長岡京市に関わる全ての人と共に50周年を盛り上げているところでございます。

結びにあたりまして、皆様方のご健康とご多幸を祈念申しあげますとともに、これからも末永く、市民の皆様とともに人権を守っていく21世紀の世の中を作ることをお誓いして、私の挨拶とさせていただきます。

あいさつ
ご挨拶

しょう しゃじ じんけん かんが しみん
障がい者児の人権を考える市民のひろば

じっこういんちょう
実行委員長

みなさま
皆様、こんにちは。

ほんじつ だい かい
本日、第45回となります「障がい者児の人権を考える市民のひろば」がこ
のように開催できますことは、かんけいだんたい みなさま ぎょうせい みなさま しえん
関係団体の皆様、行政の皆様のご支援とご
きょうりょく さんか しみん みなさま ことろ かんしゃもう あ
協力、そしてご参加いただく市民の皆様のおかげと、心より感謝申し上げ
ます。

ことし わたくし く ながおかきょうし しせい しゅうねん むか
今年、私たちが暮らす長岡京市が市制50周年を迎えました。こうした
ふしめ とし かいさい かいじょう さんか みなさま
節目の年に開催できます「ひろば」が、会場にご参加の皆様はもちろんのこ
と、しみん ひとり ひとり ねんれい せいべつ しょう う む かか ひと
と、市民お一人お一人にとっても年齢や性別、障がいの有無に関わらず、人
ひと つな たいへんうれ おも しゃかい うご はや
と人が繋がるきっかけづくりとなれば大変嬉しく思います。社会の動きが早
くデジタル化も進む今だからこそ、ひと ひと ささ あ たいせつ よろこ
くデジタル化も進む今だからこそ、人と人が支え合う大切さや喜び、そして
じんけん かんが おも
人権について考えていただければと思います。

きょういちにち えがお すてき ひ みなさま く
今日一日が笑顔あふれる素敵な日になりますよう、そして、皆様の暮らし
ながおかきょうし ねが わたくし あいさつ
やすい長岡京市となることを願い、私からの挨拶とさせていただきます。

じんけんようごいいん かつどう
人権擁護委員の活動について

じんけんようごいいん
人権擁護委員

たけだ ひさゆき
武田 久幸

1 はじめに

みな じんけんようごいいん たけだ ひさゆき
皆さん、こんにちは。人権擁護委員の武田 久幸です。

きょう じんけんようごいいん かつどう ほうこく
今日は、人権擁護委員の活動について、ご報告させていただきます。

じんけん なん じんけん
はじめに、人権って何でしょうか。人権とは

- ひと こうふく けんり
・すべての人が幸福になる権利
- にんげん にんげん い けんり
・人間が人間らしく生きる権利
- だれ う も けんり
・誰もが生まれながらに持つ権利

しあわ い だれ みと きほんてき けんり
といわれ、幸 せに生きるために、誰にでも認められている基本的な権利で
す。その権利は、誰にとっても身近で大切なもので、日 常の思いやりの心
まも
で守られるものです。

げんじつ しょう しゃ こうれいしゃ こ じよせい しゃかいてき よわ
しかし、現実には、障 がい者や高齢者、子どもや女性など、社会的に弱い
たちば ひと ぼうこう ぎやくたい さべつ いや ひがい う
立場の人が、いじめや暴行、虐 待、差別、嫌がらせなどの被害を受けるとい
じんけんもんだい お
った人権問題が起きています。

きんねん じょう じんけんしんが い とくてい みんぞく こくせき ひと
また近年、インターネット上 における人権侵害や、特定の民族・国籍の人
はいせき ふとう さべつてきげんどう お
びとを排斥しようとする不当な差別的言動、いわゆるヘイトスピーチも起こ
っています。

なか へいせい ねん しょうがいしゃさべつかいしょうほう
このような中で、平成28年に「障害者差別解消法」「ヘイトスピーチ
かいしょうほう ぶらくさべつかいしょうすいしんほう しこう ほうりつ ふとう
解消法」「部落差別解消推進法」が施行されました。これらの法律は、不当
さべつ わたし ひとり じんけん そんちょう しゃかい じつげん
な差別をなくし、私 たち一人ひとりの人権が尊 重される社会の実現をめざ
したものです。

ほうりつ じんけんもんだい かいけつ
しかし、これらの法律ができたからといって、人権問題が解決したこと
はなりません。わたし ひとり じんけん かんしん も ほうりつ しゅし
理 解して、日 常生活の中で実行・実践していくことが求められています。

じんけんようごいいん しみん たちば みなさま じんけん かんしん も
人権擁護委員は、市民の立場から、皆様に人権への関心を持っていただく
かつどう ながおかきょうし にん ぜんこく やく まん
よう、活動しているボランティアです。長岡京市に10人、全国で約1万4

せんにな かつどう

千人が活動しています。

じんけんようごいいん かつどう

じんけんけいはつかつどう

じんけんそうだんかつどう

じんけんしんぱんじけん

人権擁護委員の活動には、人権啓発活動、人権相談活動、人権侵犯事件の

ちょうさ きゅうさいかつどう

調査・救済活動の3つがあります。

じんけんけいはつかつどう

2 人権啓発活動について

わたし

ねん

なんかい

えきまえ

じんけん

かん

くば

私たちは、年に何回か、駅前などで人権に関するチラシを配っています。

ねんまえ

しんがた

かんせんしょう

りゅうこう

がいとう

しかし、2年前からの新型コロナウイルス感染症の流行のため、街頭

けいはつ

じしゆく

か

けいはつかつどう

おこな

ちゅうがっこう

啓発は自粛し、それに代わる啓発活動を行っています。たとえば、中学校

そつぎょうせい

じんけんそうだん

きさい

はいふ

など

卒業生に人権相談ダイアルを記載したマスクケースを配付する等がそれにあ

たります。

こんにち

じんけん

たいせつ

みな

りかい

にん

き

今日、人権の大切さは、皆さん理解されています。10人に聞いたら10

にん

じんけん

たいせつ

こた

人とも人権は大切にしなければならないと答えられるでしょう。しかし、

げんじつ

じんけんしんが

お

現実には人権侵害が起こっています。なぜでしょうか。

しごと

こうりつ

はや

しあ

しあい

か

たとえば、仕事をもっと効率よく早く仕上げたい、あるいは、試合に勝ち

なかも

たの

ゆうせん

たい、また、もっと仲間だけで楽しみたい、といったことを優先するあまり

とき

たにん

じんけん

そまつ

あつか

り、時として、他人の人権を粗末に扱うことがあります。

ふだん

たいせつ

おも

じんけん

わす

たなあ

普段、大切と思っている人権をそのときだけ忘れる、あるいは棚上げして

しまうことがあるのではないのでしょうか。

お

こころ

なか

じんけん

たいせつ

このようなことが起こらないように、わたしたちの心の中で、人権の大切

おも

お

じんけんいしき

うしな

さを思い起こすために、またどのようなときでも人権意識を失わないため

きかい

じんけん

たいせつ

うった

じんけんけいはつかつどう

ひつよう

おも

に、機会あるごとに「人権の大切さ」を訴える人権啓発活動が必要だと思

ます。

げんざい

しんがた

かんせんりゅうこう

がいとう

じんけんけいはつかつどう

ひか

現在、新型コロナウイルス感染流行のため、街頭での人権啓発活動は控えていま

へいおん

よ

なか

もど

がいとう

じんけんけいはつかつどう

み

す。しかし、平穏な世の中に戻り、街頭で人権啓発活動を見られたとき、ま

じんけん

かん

じんけん

たいせつ

きづ

たは人権に関するチラシをもらわれたとき、あらためて人権の大切さに気付

じんけんいしき

も

つづ

おも

き、人権意識を持ち続けていただきたいと思います。

じんけん

たいせつ

こ

はぐく

ひつよう

また、人権の大切さは、子どものころから育む必要があるということで、

じんけんようごいいん

しない

しょうがっこう

ようちえん

ほいくえん

ほいくしょ

じゃま

人権擁護委員は市内の小学校や幼稚園、保育園、保育所などにお邪魔して、

水仙やアネモネの球根を配り、育てることを通して、「命の大切さ」や「相手への思いやり」を育む「人権の花運動」を行っております。

さらに中学校では、人権に関する作文を書くことを通して、豊かな人権感覚を身につけることを目的に「全国中学生人権作文コンテスト」を実施しています。また、中学生に対する人権教室は、新型コロナウイルス流行でこの2年できませんでしたが、少し落ちついてきた今年度は実施することができました。

3 人権相談活動について

人権擁護委員は、皆様の人権に関わる問題の相談に応じています。京都地方法務局では、土日を除く毎日、面接や電話またはメールで行っています。また月2回ですが長岡京市役所でも面接による人権相談を行っています。

子ども向けには、電話による「子どもの人権110番」と、「子どもの人権SOSミニレター」といった手紙による相談や、「SOS eメール」というメールによる相談も行っています。

コロナ禍のこのような状況下で、コロナ差別（感染者やその家族、ワクチンを打つ、打たない）等の新しい事案もあると思います。新型コロナの流行下でも相談所は京都地方法務局、長岡京市共生社会推進課を含めできる限り対応しています。皆さまも人権に関わる相談があるときは、ぜひご利用ください。相談内容に関するプライバシーは必ず守られますので、安心してご相談ください。

4 人権侵害事件の調査・救済活動について

人権相談で「人権を侵害された」という被害者からの申し出を受け、必要に応じて人権擁護委員と法務局職員が協力して、被害事実の調査を開始します。そして、調査結果に基づき人権侵害が認められるかどうかを判断し、事案に応じた適切な措置を講じています。

5 お 終わりに

人権侵害は、これまでのような人権侵害だけでなく、インターネットなどの新しい技術の進歩による生活の変化、また、東日本大震災や異常気象などの新しい事故・事件の発生、さらに新型コロナウイルス感染症の流行など、私たちがこれまでに経験したことがないことに会ったとき、弱い立場の人がウワサ話などで人権侵害にあうといわれています。

将来どのようなことが起こるか、わかりませんが、困難な事態になった時、自分が人権侵害にあうだけでなく、自分が他人の人権を侵害することも十分に考えられます。そうならないために、いつ、いかなるときでも、人権意識を持つことが大切です。

人権意識とは、人権を尊重する意識ということですが、自分の人権が尊重されるには、自分が他人の人権を尊重しなければなりません。

すなわち人権意識は、「他人に対する思いやり、いたわり」あるいは「他人の心の痛みを理解する」という気持ちを持ち続けることだと思います。

最後に、人権侵害と思われるような不当な差別や暴行・虐待を受けたときは、一人で悩まずご相談ください。また周囲で見聞きした方からの相談も受け付けています。ぜひご利用ください。

以上を持ちまして、人権擁護委員の活動報告とさせていただきます。

えぬびーおーほうじんながおかきょうし NPO法人長岡京市ふるさとガイドの会 活動紹介

だいひょう よこやま たかなお
代表 横山 高尚

えぬびーおーほうじんながおかきょうし 「NPO法人長岡京市ふるさとガイドの会」は会員約60名で、わたしたちのまちを訪
れてくださる皆様に乙訓の歴史・文化・伝統を語り部としてご案内するとともに、まちの
宝を次の世代に伝えること、まちの観光振興に貢献したいと願い活動しています。

ことし そうりつ しゅうねん
今年で創立25周年を迎えます。

こうほう たいがいこうほう けんしゅう かいいん けんしゅう こうえん こうえんかいかいさい たんぼう しせきたんぼう
広報（对外広報）・研修（会員の研修）・講演（講演会開催）・探訪（史跡探訪）・
でまゑ がっこう しせつ しせつ でまゑ ふかい しゅく かいいん とく い かつどう おこな
出前（学校・施設への出前）の「部会」という仕組みで会員が得意な活動を行っています。

いらい にゅうかい きぼう きがる れんらく
ガイドのご依頼も、入会のご希望もお気軽にご連絡ください。

かつどうふうけい
活動風景



あおいろ
おそろいの青色のベストで

あんない かい
案内する会のメンバー

わたしたちのまちをもっとしることで

わたしたちのまちをもっと好きになり

わたしたちのまちをもっと誇れるように

わたしたちはお手伝いできたら とてもうれしいです。

し しかくしょうがい 知ってほしい 視覚障害

ながおかきょうししかくしょうがいしゃきょうかい
長岡京市視覚障害者協会

・目の見えない見えにくい人のこと、ご存知ですか？

→目が見えない見えにくいといっても、見え方は人それぞれ「光 もわからない 全く 見えない人」「明暗やシルエットはわかる人」「文字を拡大したりコントラストをつければ文字が認識できる人」など一人一人見え方は違いますが、外を歩く時、買い物の時、相手の顔や表情がわからない時など、困りごとは同じだったりします。



・白杖を持った人を、見かけたことはありますか？

→私 たちは白杖(はくじょう)を使って、段差やぶつかるものがないか、また点字ブロックを確認しながら、外を歩いています。そして、道を歩く人や自転車に乗っている人、車を運転している人にわかるようにという意味もあり、白杖を持っています。

・白杖を持った人に、声をかけたことはありますか？

→声をかけてくださった方、本当にありがとうございます。白杖を持った人が困ってそうだったり、危ないかもと思われる時には、声をかけてくださると助かります。

☆声のかけ方、サポートの仕方のポイント

- ①「お手伝いしましょうか」「何かお困りですか」と声をかけてみてください。
- ②「お願いします」など返事があれば、できる範囲でサポートをお願いします。
- ③サポートの仕方としては、一つは言葉で伝えること、他には一緒に歩くことがあります。歩く時は、「私の腕を持たれますか」と、肘や肩を持たせてもらえると安心です。



・目の見えない見えにくい人と、知り合ってみませんか？

→私 たちは視覚に障がいはあるけれど、皆さんと同じようにこの地域で暮らしています。見ることにについては周りの人に助けてもらいながら、音や声を聴いて、物を触り人と触れ合い、香りや味を楽しみ、自分なりの幸せな生活を送っています。ご興味ある方は下記の場にお越しください。

市役所

☆ご興味ある方へ

- ・目の見えない見えにくい人たちの情報交換や交流の場 = 乙訓サテライト事業「毎月第3水曜日」
 - ・点字点訳を学ぶ場 = 点訳奉仕員養成講座
 - ・外出支援の知識技術を学ぶ場 = 同行援護従業者養成研修
- ※詳しくは、市の広報などをご覧ください。

皆さん「目を大切に」お過ごしください。

「障がい者(児)の人権を考える市民のひろば」

ながおかきょうし きょうかい
長岡京市ろうあ協会

はいいもので 45回目を迎えます。振返ってみますが、第1回目が開催さ

れたことはお恥ずかしい話、あまり記憶に残っていません。

わたし しみん つかい むか つかい ふりかえ だいい つかいめ つかいさい
私たちは「市民のひろば」を通じて、様々な障がいの方たちや関わってく
ださっている方たちのことを少しでも知ってほしいと思い、多くの市民の方に
さんか かつどう
参加いただけるよう活動してきました。

かくしせつ だんたい たんとう もぎてん じゅんぴ たいへん
各施設、団体が担当するコーナーや模擬店などの準備は大変でしたが、
いづも ねがやかです。

き わたし げんご おんせい わたし げんご
聞こえない私たちにとっての言語は音声ではありません。私たちの言語
しゅわ しゅわ たいせつ しゅだん
は手話であり、手話は大切なコミュニケーション手段です。

しみん しょうがくせい かそくづ おお きょうじ きょうかい
「市民のひろば」は、小学生や家族連れが多い行事です。ろうあ協会のコ
ーナーでは、ちいき かた しゃ こうりゆう ひろ がくしゅう ふか
地域の方とろう者との交流を広め、学習を深められるように
しゅわ ふきゅう つと なまえ ゆびもじ しゅわ おぼ
手話の普及に努めました。かんたんないさつ、名前、指文字の手話を覚
えていただきました。教えることも楽しいです。皆さんに手話を学んでいただ
き、覚えていただき、手話でちょっとしたお話ができると嬉しいです。

しょう みんな ささ あ あんしん く
障がいがあるなしにかかわらず、皆が支え合って安心して暮らせるように
ちから がんば おも
力をあわせて頑張っていきたいと思います。

わたくし こうはん じんせい 私の後半の人生

しだいしょう しやきょうかい
肢体障がい者協会

2012年4月 51歳で交通事故に遭い障がい者になりました。青天の霹靂というよりも絶望のどん底という言葉で表現することが、その時の心境にピッタリだったと思います。目が覚めたのは事故後約1 か月過ぎた頃で、ベッドの上で一生過ごす可能性を医師から告げられました。

自分の状態を理解する能力もなく、ただボーっと聞き流して意識が遠のき、いつ目覚めているのか眠っているのか、日にちも時間も分からず人工呼吸器・点滴・導尿カテーテル・人工肛門・ギブスを装着されていました。足が痛いと思っさすりたいたのに足が無い！ことを自覚したのも随分後になってからだったように思います。

約2年4か月の治療とリハビリを経て退院したものの、通院以外は外出もできずに過ごしていました。高額になる通院タクシー代を何とかしたくて、公共交通機関を利用する決意をしてからの意識と行動が、今の私の一歩目だったと思います。もちろんリハビリ入院中に体力・筋力をつけていたおかげですが、気持ちが前向きになれたのはやはり自力で行動することから始まったのだと思います。

出掛けることで他人の目が気になり、身なりを整える為には高い物もしたくなり、一人で行動するうちに何処へでも行けるようになっていました。

その後はスポーツを通して肢体障がい者協会を知り、加入してからはたくさんの方々と知り合い、様々な行事に参加し、楽しく過ごしています。コロナ禍で行事が縮小して、なかなか皆さんにお会いできない日が続いていましたが、今日は大勢の方にお会いできました。

肢体障がい者協会の方々だけではなく、身体障がい者団体連合会のなかの他団体の方々とも知り合えてからは、色々な障がいについての知識も増えてきて、自分自身が少し成長したような気持ちです。

ただ知り合えた障がい者の方々は、活動的で外部へのアンテナを広げた方たちばかりで、家の中で引きこもってしまったように過ごされている方々が多くおられるのではないかと思うと残念に思います。

全国障害者スポーツ大会への参加や生涯スポーツを通して、友人知人をどんどん増やし、楽しく元気に過ごすことが後半の人生の目標です。

みんながみんな自由に思うように行動できるよう、心と共にバリアフリー化が進んでほしいですね！

「障がい者(児)の人権を考える市民のひろば」に長く関わって

なんちようしゃきようかい
難聴者協会

1981年の国際障害者年を前にして、この事業が1年で終わるのでなく、継続的な事業であって欲しいとの故梅田由雄さん(肢体協会)の提案で「障害者と市民のつながりひろば」という名称でスタートしました。「ひろば」は障がい者だけでなく、手話や要約筆記、ガイドヘルパーなどのボランティア団体、共同作業所など長岡京市内のオール障がい者関連団体で構成されました。障がい者と一般市民が交流し、理解を深めあう場所として評価されるものだったと思います。

事業の名称を検討する時に「障がい者と市民?」市民の中に障がい者も含まれているのに、分けるの(併記)はおかしい等多様な議論をしたことを当時のメンバーとともに懐かしく思い出します。

スタートした当時のメンバーのほとんどは亡くなりました。私はお陰様で第一回から皆勤できています。

記憶があいまいで恐縮ですが、その後名称の変更が何度かあり、人権協と共催の「障がい者児の人権を考える…」として45回目を迎えることができたことは大変うれしいです。

人権協との共催となって、人権協の活動を初めて知るようになりました。障がい者福祉は基本的には人権の問題と考えるようになりました。どのような人も尊厳される社会が理想ですが、だれでも無意識のうちに他の人を傷つけたり、差別する危険があります。「みんな違って、みんな良い」という意識は自然に生まれるものでなく、常に自覚をもって、理性を磨いてこそ生まれてくる意識です。

「ひろば」では毎年自分たちの団体のコーナを担当して、残念ながらホール会場にはあまり行けない状況でした。同じような人のために、何か所かで実況映像が映し出されるのはうれしい配慮でした。

落ち着いてホールを楽しむことはできなかったのですが、第41回の奥山佳恵さんの講演テーマ「生きるだけで100点満点!」が強く印象に残りました。困難であれば困難であるほど「生きていること」が輝いていると再確認する思いでした。

どのような人も尊厳を守られる社会は理想の社会であり、私もその実現に向けてまだまだ努力していきたいと思っています。

「やよい工房に通って」

やよい工房 M・Y

私の障がいには統合失調症です。17歳の頃、いきなり一人で西山にある神社の階段を意味もなく上がったり降ったりし、母がこれはおかしいということで大阪にあるクリニックを受診しました。その後、服薬しながら19歳から22歳までの4年弱大学へ通いながらアルバイトを続けていたのですが、普通にできていたことができなくなりアルバイトを辞めました。静かな所にいると幻聴が聞こえてきて不安になり、自分の身体を小さくしたり、時には大声を出したりしてしまうことがあります。幻聴で『ごめん、やめる』という声がすると私は気がおかしくなる程苦しくなります。またのこのような病状により、お金の管理、部屋の片づけ、食事作りなどが自分でできなくなり、将来の不安となりました。このような障がいのため約9年前の36歳の頃からやよい工房にお世話になっています。通所しはじめたころはまだ精神的に不安があり、長岡病院のデイケアへ4日、やよい工房へは週1日からスタートしました。不安なことがあると工房の職員さんは真剣に、なおかつ親身になって話をきいてくれたり、楽しい話もしてくれました。徐々に工房にも慣れていき週2日、3日と通所日が増え、今は長岡病院のデイケアを卒業し、工房で週5日4時間作業しています。今は私にとってやよい工房の通所が生活の一部になり日々充実した日を送っています。やよい工房の作業内容はたくさんあるのですが、お菓子、パン、お弁当の製造・販売、ボカシ作業、下請け作業もあります。各自が自分の能力・好きな作業を選択して取り組んでいます。年間行事もお花見、夏祭り、一泊旅行、クリスマス会、バザーと盛りだくさんです。夏祭りやバザーでは屋台で焼きそば、フランクフルト、唐揚げ、おでん、ちらし寿司等を販売しています。地域の方々にやよい工房をもっと知っていただける貴重な機会となっています。毎年恒例なので地域の子供たちも楽しみに待っていてくれていてとてもうれしいです。行事はどれも充実したい企画で私は全部参加しています。月に1度のやよい工房内でのパン販売では、お客様から笑顔で『美味しかったよ』と言われると、次もそのまた次も美味しいものを作って販売しようと思います。こういう地域や社会との繋がりを大切にしながら販売を通じて皆様にやよい工房の美味しいパンを知って頂けたらとおもいます。本日はやよい工房の手作りパンは販売していませんが、焼き菓子を販売しています。皆さんたくさん買ってくださいね。

昼食は毎日、調理員さんが手作りで栄養バランスを考えて作っていただいています。ボリューム満点でとっても美味しいです。

下請け作業は主に箱折り、シール貼り、御守りの型付けをしています。作業時間は1日4時間で1時間に一回休憩があります。その休憩時間の楽しみはお茶や飲み物です。工房内に1本100円でジュースやお茶の販売がされていてリクエストをすれば自分たちの好みのジュースが置かれていることもあります。お茶や飲み物は私たちのエネルギー源です。とても感謝しています。これまでお世話になった長岡病院の医師やデイケアのスタッフ、やよい工房の職員の方々への感謝を忘れずに、今後も笑顔で絶やさず楽しく暮らせたらいいなと思います。当事者の仲間たちとは、励ましあいの声かけができ、くじけそうになったら『頑張ろう!!』と言い合え、そして支えあっていきたいと思います。私もくじけないよう、責任を持って焦らずに行動できるよう頑張っていきます。

おとくにしゅわ 乙訓手話サークルでんでん虫

わたし しゅわ
私が手話サークルでんでん虫に入^{むし}ったのは、手話教室入^{はい}門講座が終^{しゅわきょうしつにゆうもんこうざ}わった

あと
後で、その時^{とき}子どもは小^{しょうがっこう}学^{ねんせい}校2年生だ^{おも}ったと思います。私^{わたし}は手話を習^{しゅわ}うの^{なら}がと

たの
でも楽しく、毎^{まいしゅう}週^か欠^{かよ}かさずサークルに通^{かよ}っていました。

しゅわこうざ にゆうもん つぎ だんかい う
手話講座も入^{おも}門の次^{よる ひら}の段階^{よる ひら}を受けたいと思^{おも}っていました^{よる ひら}が、夜^{よる}に開^{ひら}かれると

し
知^しり、子^こどもを一人^{ひとり}家^{いえ}にお^でいて出^いるわけにも行^いかず、あきらめ^{まわ}ました。でも、周

ひと つぎつぎ こうざ う
り^{ひと}の人は次々^{つぎつぎ}と講座^{こうざ}を受け^うていき、私^{わたし}一人^{ひとり}が置^おいてき^{じょうたい}ぼりの状^{あせ}態^{かん}で焦^{あせ}り^{かん}を感

じていました。そんな時^{とき}、ある^{かた}ろうの方^{かた}が、「まず^{こそだ}は子^{こそだ}育て、子^お育てが終^おわった

しゅわ
ら手話^{しゅわ}」とア^きドバ^きイス^もを^おして^つくだ^おさり、気^お持^つちが落^おち^つ着^おき^つま^おした。そ^こして子^こど

ちゅうがくせい
もが中^{ちゅうがくせい}学^{せい}生^{せい}にな^{よる}り、夜^{よる}に一人^{ひとり}家^{いえ}に^いら^いれる^いる^いよう^いにな^いり、私^{わたし}も次^{つぎ}の講^{こう}座^ざを^うけ

じゅうすうねん
る^{いま}ことが^{わたし}でき^{おな}ました。あ^{おな}れ^{おな}か^{おな}ら^{おな}十^{おな}数^{おな}年^{おな}た^{おな}ち、今^{いま}は私^{わたし}が同^{おな}じア^{おな}ドバ^{おな}イス^{おな}を^{おな}する

たちば
立^{たちば}場^ばとな^{たちば}り^ばま^ばした。

しゅわ
手話サークルでんでん虫^{むし}は、小^{ちい}さい子^こども^こさん^こを^も持^もつお^{かあ}母^{かあ}さん^{かあ}も手話^{しゅわ}の勉^{べん}強^{きょう}

ができるサークルです。サークルに子^こども^こさん^こを^{しゅわ}連^{おぼ}れて、子^こども^こさん^こも手話^{しゅわ}を^{おぼ}覚^{おぼ}

かたがた しゅわ おし
え^{かたがた}て^{しゅわ}い^{おし}ます。ろ^{たの}う^{まな}の方^{まな}々^{まな}に手話^{しゅわ}を^{おし}教^{おし}えて^{おし}もら^{おし}い、楽^{たの}しく学^{まな}ん^{まな}で^{まな}い^{まな}ます。これ^{まな}か

むし しゅわ まな ひと ふ
らもでんでん虫^{むし}で手話^{しゅわ}を^{まな}学^{まな}ぶ人^{ひと}が^ふ増^{おも}える^{おも}とい^{おも}い^{おも}な^{おも}と思^{おも}い^{おも}ます。

おとくにしゅわ
乙訓手話サークルでんでん虫^{むしかいじん}会^{むしかいじん}員^{むしかいじん}

ねん これまでの50年、これからの50年

おとくにしょうがいじふほかい
乙訓障害児父母の会

このたび、10月1日の長岡京市市制施行50周年記念式典で、長年活動が続けてきた多くの団体とともに、当会も表彰を受けました。どうもありがとうございました。

当会は市制施行を遡ること7年前の昭和40年9月に設立されました。その頃、京都にはまだ肢体不自由児が通って訓練を受けられる施設がなかったため、大阪府立の施設まで、肢体不自由の我が子を背負って7年間も通っていた母親が、同じ思いの親とともに、会を立ち上げたのです。設立と例会には、医師やセラピストの他、役所関係の方たち等、たくさんの協力をいただいたそうです。

会の第一目標は、療育センター設置を府に要望することで、昭和42年の京都府立向日が丘養護学校開校や、昭和43年の肢体不自由児療育施設（向日が丘療育園）・昭和46年の就学前通所施設（乙訓ポニーの学校）の開設が実現しました。その後も、学校卒業後に通える場所や、暮らしの場など、子たちに必要なことに活動の力を注ぎました。現在、会員の子らがグループホームで生活するケースも少しずつ増えてきています。

今年45回目を迎えた「障がい者児の人権を考える市民のひろば」の実行委員会にも、長く参加させていただいており、うれしいことです。「ひろば」は、市民のみなさんに障がいについての理解を広げるための大切な機会です。

ただ、当会会員の多くは、当日のプログラムには参加が難しいのが現状です。「ひろば」のある土曜日は通所施設が休みで、行動援護が必要な子や、「医療的ケア」等、生活行為のすべてに全介助が必要な子の世話で、一日中傍から離れることができません。通所施設が休みの土日は、グループホームも休みにになり、また、家族内にダブル介護がある会員もいます。少しの時間を作って、「ひろば」の会場へ駆けつけた時は、「ひろば」のしおりをもらって、各ブースを駆け足で見て回り、ほっこりめぐで買い物ただけで、急いで帰ります。

ところで、平成30年4月1日には、「誰もが共に自分らしく暮らす長岡京市障がい者基本条例」が施行されました。令和元年中に実施された市民アンケートによると、この条例の認知度は、まだ低いようです。同アンケートでは、長岡京市民の障がい者に対する理解が「進んできた」と思う人の割合は、39.6%だそうです。この数値がこれから先もっと増えるように願っています。

そして何よりも、遠く離れた施設ではなく住み慣れた長岡京市に、どんな障がいがあっても、この先も住み続けられる暮らしの場が実現することを、心から願っています。

おとくにてんやく
乙訓点訳サークル

おとくにてんやく しょうわ ねん ながおかきょうし てんやく
乙訓点訳サークルは昭和52年に、長岡京市の点訳
ほうしいんようせいこうざ しゅうりょう かたがた せつりつ
奉仕員養成講座を終了された方々が設立されたサークル
です。

せっかく おぼ てんやく けいぞく はじ
せっかく覚えた点訳を継続しようというところから始めら
れたと聞いています。当初から熱心な大先輩方が、
しかくしょう しゃ かた やくだ さくせい
視覚障がい者の方に役立つものをとカレンダーを作成され
たり、市の広報を点訳されたり、勿論、一般書籍も数多く
てんやく よろこ いがく はったつ
点訳してきました。喜ばしいことに、医学の発達もあり、
せんてんてき しかくしょう しゃ げんしょう とうようびょう
先天的な視覚障がい者は減少していますが、糖尿病をは
びょうき ちゅうとしつめい かた か
じめ病気により中途失明となる方は変わらずおられます。

ねんれい かさ てんじしゅうとく むずか てんやく おんやく
年齢を重ねてからの点字習得は難しく、点訳よりも音訳

おんせい き りよう かた ふ
(音声で聴く) を利用される方が増えていますが、

しかくしょう しゃ てんじ
視覚障がい者にとって、点字がなくてはならないものであ

ることに変わりはありません。お一人でも必要としてくだ

さる方がおられる間は、サークルが存続できるようにメン

バーは日々、精進しています。それなりに・・・

な かま だい かん げい きょう みの かた ぜ ひ
お仲間、大歓迎です。興味のある方は是非！

「知らない」ということ

ようやくひっき
要約筆記サークル ラビット

がつ にちづけあさひしんぶん きじ
9月27日付朝日新聞の記事。

24歳と18歳の姉妹。妹は生まれつき耳が聞こえない。その二人が限定オープンのアパレルショップで手話対応の販売員として接客した。

売り場にはスタッフ全員が小さなホワイトボードを持ち、筆談で対応できるようにしたり、試着室には「サイズが合いません」などと書かれたボードを設置し、指差しだけで要望を伝えられるような様々な工夫をした。

妹自身、販売員の言っていることが分からない、試着したくても相手に伝えられないことで、買い物を心から楽しめた記憶がないという。買い物をするといういたって身近なことで、「楽しめた記憶がない」ということに私は驚いた。

店員一人ひとりがホワイトボードを持つのは難しくても、店舗に一組の紙とペンを置くことは簡単なことなのに、それに気づかない、困っていることが分からない。

知っていればすぐ対応できることでも、知らないことが難聴者さんの悲しみや諦めになってしまうと感じた。

「自分は耳が聞こえないだけ。かわいそうと思ってほしくない」という先ほどの記事にある妹さんの言葉にはっとした。

正しい双方向のコミュニケーションが必要であり、お互いを理解することが大切だと思う。

障がいのある人たちが日々の生活の中で不自由に思っていることを気軽に発信でき、気持ちを共有できる場がより必要だと思う。

大きなことはできなくても些細なことが小さな笑顔に繋がれば、お互いうれしい。

微力ながら、その一歩を要約筆記者の一人として活動していきたいと思う。

朗読ボランティア「なごみ会」

視覚障がい者の方へ朗読を通してボランティア活動をしています。

～活動内容～

■市の広報紙の録音

広報長岡京を月1回朗読・録音、また議会だよりをその都度朗読・録音し、C D化して情報をお届けしています。

ただこの間コロナ禍の折りに録音することができず、中断していた時期もありました。今は感染対策をし、再開しています。

■声のおたより

メンバーの「おでかけレポート」「本の紹介」「小説の朗読」等録音情報誌（C D）の発行。

■希望図書の録音

視覚障がい者の方から希望のあった図書を朗読・録音してお届けしています。

■催しに参加

「長障連スポーツフェスティバル」や「社会福祉大会」「障がい者児の人権を考える市民のひろば」等の催しや講座、交流会に参加。

時には司会や朗読でお手伝いしています。

今年は初めての試みとして、長視協の皆さんの交流の場「サテライト教室」での朗読の依頼があり、参加しました。

朗読で交流でき、大変有意義なひと時でした。

これからも微力ですが、出来ることで地道に活動を続けていけたらと思っています。

『私の好きなこと』

私は今ジャニーズグループのなにわ男子にハマっています。

7人全員の事が好きで、応援しています。

里では、お昼休みに自分のポータブルDVDプレイヤーで、なにわ男子のコンサートDVDやメンバーの西畑くんが出ている「コタローは一人暮らし」を里の仲間と見えています。

同じなにわ男子ファンの仲間とも情報交換したりして、楽しく過ごしています。

なにわ男子がきっかけで里の中でも様々な年代の仲間と関わって、嬉しいです。

なにわ男子ありがとう！！

そんな私の夢はなにわ男子のコンサートへ行くことです。

次こそ当たりますように。

おとくに さと りようしゃ
乙訓の里 利用者

「僕の未来」

僕は、18歳の時に、乙訓の里に来ました。里に来て数年は、年上の人にも偉そうな口調で話すこともありました。そんな時、職員さんに注意され、最初は反発もしていたけれども、次第に「自分が悪かったんだ」と気がつき、それ以降は丁寧に話すように気を付けています。

26歳の時から、毎年、作業で年賀状のデザインを考えて、作成・販売をしております。他の利用者さんからたくさんのアドバイスを頂き、令和4年の分は500枚以上の注文を受けることが出来ました。

もうすぐ30歳。これからはいろいろなことにチャレンジし、僕の未来を、これからも自分で歩んでいけたらなあ、と思います。

おとくに さと りようしゃ
乙訓の里 利用者

わかたけえん

若竹苑のこと

おとくにわかたけえん
乙訓若竹苑

しゅうろうけいぞくしえんぴーがたりようしゃ けーえぬ
就 労 継続 支援 B 型 利用者 K.N

しえんがっこう そつぎょう ねんめ わかたけえん いちばんわか さい
わたしは支援学校を卒業して3年目、若竹苑で一番若い21歳です。

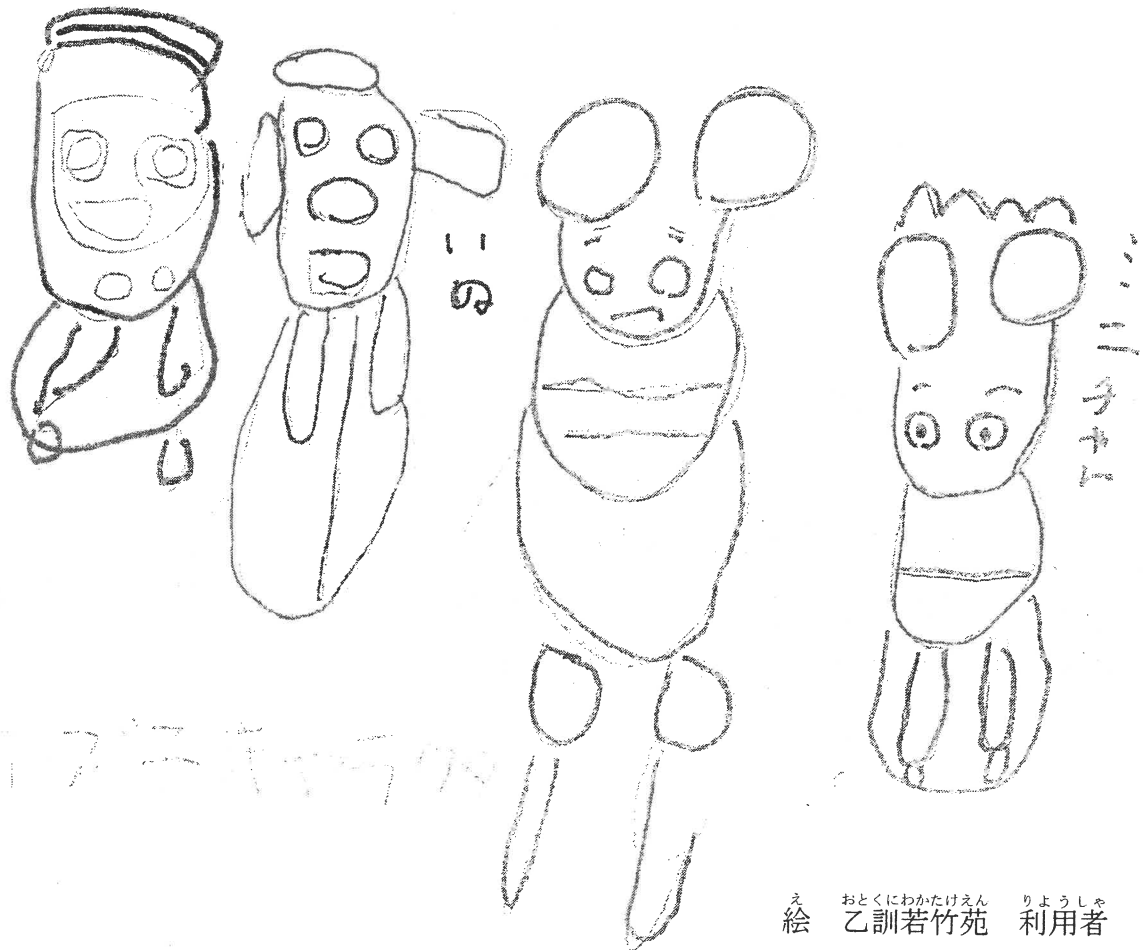
わかたけえん はこお ぶひんく た はか そうじ こうみょうじ そうじ
若竹苑では、箱折り、部品組み立て、お墓の掃除や光明寺の掃除を

がんば しごと す
頑張っています。お仕事はどれも好きです。

いえ せんたく しょっき あら もの てつだ
家でも、お洗濯や食器の洗い物などのお手伝いをしています。

こうちん い あらし
工賃をもらって、ディズニーランドに行ったり、嵐やキンプリの

でーがーいー か
DVDを買いたいです。



え
絵

おとくにわかたけえん
乙訓若竹苑

りようしゃ
利用者

だぶるじゅしょう
W受賞

ながおかきょうしょうやくひつき きぼう
長岡京市要約筆記サークル『エスペランサ（希望）』

だい かいきょうとふふくしだいかい かいさい ながおかきょうしょうやくひつき きぼう
第71回京都府福祉大会が開催され『長岡京市要約筆記サークル エスペランサ（希望）』

しゃかいふくしじぎょう こうろうしやち しひょうしょう じゅしょう ながおかきょうしせい
が社会福祉事業・ボランティア功労者知事表彰を受賞いたしました。また長岡京市市制

しゅうねんきねんしきてん ぶもん ひょうしょう
50周年記念式典においても、『くらし部門』にて表彰をしていただきました。

おお かた はげ かげ ささ こころ かんしゃ
これもひとえに多くの方の励ましと陰ながらのお支えと、心から感謝いたします。

へいせい ねん ねんかんしよぞく はな にん ほっきにん
平成23年（2011）に、それまで16年間所属していたサークルを離れ、3人を発起人と

あたらし た あ はたら かつどう
して新しいサークルを立ち上げました。働いていても活動できるボランティアをめざし、

ひと なんちようしやりかい けいはつ しゅじく かつどう
『できる人ができることを』をモットーに難聴者理解のための啓発を主軸に、ゆるい活動
をしています。

こうれいなんちよう おお かた ようやくひつき そんざい そん おも
高齢難聴の多くの方が、要約筆記の存在さえご存じないのでは…と思っています。

ゆた せいかつ てつだ ねが
豊かな生活のためのお手伝いができれば…と願っています。

た あ ねん た あ いちばんねっしん うえだ ふ み こ れいかい
サークル立ち上げから10年、サークル立ち上げに一番熱心だった上田富美子さん、例会に

えが お とど あまのよしゆき
笑顔を届けてくれた天野義行さんとの

かな わか じゅしょう
悲しい別れがありましたが、この受賞を

こころ よろこ
心から喜んでくださることでしょう。

こころ うと
そのお心はしっかり受け取っています。

みまも
これからもどうぞ見守ってくださいね。



（2011 “ひろば” にて）

おかげさまで今年46年目

視覚障がい者のボランティアとしてスタートした『ガイドヘルパー ともしび』。

46年前、当事者であった桜井八太郎さんの「出かける時の手助けが欲しい」との市への相談にこたえる形で市の広報にボランティア募集の記事が載り、それに応募した市民5人でスタートしたそうです。「設立した頃はいろいろ社協のお世話になった」と当時のエピソードを話す、当初からのメンバーで今も会員の吉田美智代さんの想いは篤い。今年長岡京市市制50周年式典と一緒に出席させていただきました。本当に嬉しいことでした。吉田さんのその想いを大切にして今後も活動したいと思っています。

28年前、地域との繋がりが持ちたくて入会した頃は有資格者の会となっており、毎月分庁舎に会員が集まり、外出予定の方のガイドをだれがするのか、大きなチャート紙に書き込んでそれを福祉課に渡すというものでした。福祉制度が措置から契約に変わり、活動の内容も大きく変わりました。ガイド自身も事業所契約となり、会員も20人近くいたのが3人まで減少しました。会の存続が危ぶまれましたが、資格はなくとも「お手伝いしたい」という方が声をかけてくださって、現在11名の会員となりました。ありがたいことでした。

設立の趣旨は大切に、多くの方を巻き込みながら活動したいと願い、今年『視協サポート ともしび』に団体名称を変更しました。要請があればいつでもどこへでも出かけています。興味のある方には手引きの仕方などのお話もさせていただいています。お気軽にお声かけくださいね。

『視協サポート ともしび』

れきし ながおかきょう
「歴史ある長岡京で、これからも…」

ながおかきょうししょう しゃちいきせいかつしえん
長岡京市 障がい者地域生活支援センター「キャンバス」

ピアカウンセラー

ことし しせい しゅうねん むか ながおかきょうし
今年、市制50周年を迎えた長岡京市。

まち う まち そだ じだい とも すこ すこ ふうけい
この町で生まれ、この町で育ち、時代と共に少しずつ少しずつ風景や

かんきょう か こと かん しみん ひとり まち く
環境が変わってきた事を感じながら、市民の一人として この町で暮

つづ うれ おも
らし続けれてることを嬉しく思います。

ことし しょう しゃじ じんけん かんが しみん かいめ
そして今年、「障がい者児の人権を考える市民のひろば」は45回目。

わたし よ あいしょう す
私は「ひろば」と呼ぶ愛称が好きです。

しょう じぶん しょうじき こうきょうせつび ふくしせいど
障がいがある自分にとって、正直なところ公共設備や福祉制度など

ふべん かん てん しょう しゃ おも
の不便さを感じる点はまだまだいっぱいあります。障がい者の思いを

ひと ばしょ かん おも
いろいろな人に、いろいろな場所で感じてもらえたらなあ…と思います。

しょう とくべつ ひと じんけん いちしみん
でも、障がいがあるから特別な人ではなく、人権のある一市民です。

ひと つど たが わ あ
「あらゆる人たちが集う「ひろば」、で「お互いを分かり合い」、

だれ く ながおかきょうし しんか
もっともっと「誰もが暮らしやすい」「長岡京市」へと進化していけれ

うれ とも ながおかきょうし れきし きざ
ば嬉しいです。これからも共に、長岡京市の歴史に刻んでいけたらステ

キですね。

しゅうろうしえん
就 労 支 援 セ ン タ ー カ メ リ ア

カメラリアはこれまで「多機能型事業所カメラリア」として活動してきましたが、今年4月から同法人内の就 労 支 援 事 業 所 ピ オ ニ ー と 統 合 し、「就 労 支 援 セ ン タ ー カ メ リ ア」に 名 称 が 変 更 と な り ま し た。そ れ に 伴 い 利 用 で き る サ ー ビ ス も、就 労 継 続 支 援 B 型 / 就 労 移 行 支 援 / 就 労 定 着 支 援 の 3 つ に 変 更 と な り ま し た。

名称等は変更となりましたが、これまでと変わらずこれから就 労 を 目 指 し た い 方、生 活 リ ズ ム を 整 え て 就 労 に 向 け て 準 備 し た い 方 が、作 業 を 通 じ て 就 労 に 必 要 な 力 を 身 に つ け ら れ る 場 所 と し て サ ー ビ ス を 提 供 し て い き ま す。作 業 は、製 パ ン と 内 職 の 2 班 に 分 か れ て 日 々 活 動 し て い ま す。時 々、長 岡 京 市 役 所 で も、パ ン 販 売 を し て お り ま す の で、機 会 が あ れ ば お 越 し く だ さ い。

しょう しゃじ じんけん かんが しみん じっこういいんかい
障がい者児の人権を考える市民のひろば 実行委員会

ながおかきょうしんたいしょう しゃだんたいれんごうかい
長岡京市身体障がい者団体連合会

ながおかきょうしだいしょう しゃきょうかい ながおかきょうししかくしょうがいしゃきょうかい
長岡京市肢体障がい者協会・長岡京市視覚障害者協会

ながおかきょうしなんちょうしゃきょうかい ながおかきょうし きょうかい
長岡京市難聴者協会・長岡京市ろうあ協会

ながおかきょうししょう しゃそうだんいん おとくにようやくひっき
長岡京市障がい者相談員・乙訓要約筆記サークル「ラビット」

おとくにてんやく しきょう
乙訓点訳サークル・視協サポート「ともしび」

ながおかきょうししょうやくひっき きぼう
長岡京市要約筆記サークル『エスペランサ（希望）』

おとくにしゅわ むし
乙訓手話サークルでんでん虫

ろうどく かい
朗読ボランティア「なごみ会」

おとくにしょうがいじ ふ ぼ かい おとくにて おや かい
乙訓障害児父母の会・乙訓手をつなぐ親の会

おとくにふくしかい おとくにわかたけえん ふくしかい
乙訓福祉会・乙訓若竹苑・あらぐさ福祉会

こうぼう しゅうろうしえん
やよい工房・就労支援センターカメリア

ながおかきょうししょう しゃちいきせいかつしえん
長岡京市障がい者地域生活支援センター「キャンパス」

ながおかきょうしじょせい かい ながおかきょうししょうねんしょうじょがっしょうだん
長岡京市女性の会・長岡京市少年少女合唱団

ながおかきょうしじんけんけいはつすいしんきょうぎかい ながおかきょうししゃかいふくしきょうぎかい ながおかきょうし
長岡京市人権啓発推進協議会・長岡京市社会福祉協議会・長岡京市

しゅさい
主催

ながおかきょうし
長岡京市

ながおかきょうしきょういくいいんかい
長岡京市教育委員会

しょう しゃじ じんけん かんが しみん じっこういいんかい
障がい者児の人権を考える市民のひろば実行委員会

こうえん
後援

きょうとしんぶんしゃ
京都新聞社

おとくにじんけんようごいいんきょうぎかい
乙訓人権擁護委員協議会

ながおかきょうししゃかいふくしきょうぎかい
長岡京市社会福祉協議会

こうえん じよせい
後援・助成

こうえきざいだんほうじんきょうとしんぶんしゃかいふくしじぎょうだん
公益財団法人京都新聞社会福祉事業団

ありがとう

そんなアナタの

味方です

T.K



かしこ暮らしっく
長岡京

おとくにわかたけえん りようしゃ さくひん
乙訓若竹苑 利用者 作品